



リニューアル版 ラップニュース

VOL.258

2024.9.1

発行：ラップ東京株式会社

<https://www.raptokyo.co.jp/>

(無断転載厳禁)

◎ラップ東京では、皆様のお役に立てるような様々な内容のコラムを発信しています。バックナンバーは www.raptokyo.co.jp から

「大事な一戦」

全国高等学校野球選手権大会が今年も酷暑の中、行われました。高校野球というと、ひとつひとつのプレーにハラハラドキドキしますが、勝った負けた以外に感動する場面が多々あります。ピッチャーゴロでも一塁まであきらめずに懸命に走る姿、何度も練習したはずなのに、まさかのエラー。試合終了後の監督のインタビュや解説者の方の話を聞いていると、ヒントになることがたくさんあるように思います。

ある監督は、インタビュで「ピンチの後にはチャンスが来る。その繰り返しです。あの時のピンチを乗り切ったことがとても大きいと思います」ある解説者は、「今回の勝負では〇〇君は負けてしまいました。が、ちよつとやそつとじや諦めない姿をみて、彼の今後がたのしみです。」ピンチばかりが続くことはないし、チャンスばかりがやってくることはありません。ピンチとチャンスは繰り返す。勝つこともあれば負けることもあります。大切なのは、そのときどうするか？ どう考えるか？ だと。その通りだと思いました。

試合をみていると、どちらのチームもとても頑張っています。両方とも勝たせてあげたくなくなってしまふことがあります。でも勝ち負けがつかないと、ピンチとチャンスに気づいて、ピンチなら失点を最小に抑える方法を考えたり、チャンスなら最大限に生かすような工夫をしたりする必要がなくなってしまう。勝つか負けるか、緊張感、プレッシャーはやはり必要だと思えます。

さて、仕事も同様にピンチとチャンスは繰り返します。いつも、緊張感をもっていないと、気づかないまま過ぎ去ってしまう可能性もあります。「練習は決して裏切らない」という言葉は野球以外のアスリートからもよく聞きますが、ピンチにもチャンスにも気づけるよう準備、練習、心構えをもっておきたいと思えます。業種によりその方法は異なると思えますが、基本の部分は同じなのではないでしょうか。

はるか昔、少年野球をやっていたころ、監督がよくいついたことは、ノーアウトでランナーに出る（お前たちには、野球はツーアウトから、ということには当てはまらない）、追い込まれる前に打て（追い込まれたら打てない）バントは最初から構えている（バントの構えをしてもできないのだから）こんな感じでした。プロならツーアウトからでも得点に結びつくし、追い込まれてもヒットやホームランを普通に打ちます。バントも難なく決めていくけれど、少年野球ではたくさん練習をしても、そうは上手くいきません。それまで、厳しい練習ばかり（走り込み、筋トレなど）でしたが、「野球」というものを教えてくれたように思いました。さすが監督です。

社会人になり、「仕事とは」を覚えてくれた方は大勢います。実践で厳しく、鍛えて教えてくれるのはいつもお客様、そして試合で活躍しているかどうか（お役に立っているか）の判断もお客様です。いつもありがとうございます。

ご案内

それほど高機能ではなく、更新したいページを簡単に更新できる

簡単更新くん

「つながりたい」をサポートする

簡単らいんちゃん

詳細はホームページから <https://www.raptokyo.co.jp>

【お問い合わせ】
ラップ東京株式会社
(担当：田島)

ラップニュース バックナンバーはホームページからご覧いただけます。
アンケートがありますのでよろしかったら、ご意見をお聞かせください。 <https://www.raptokyo.co.jp/>

